

○家計の資産格差と生活格差を考える

テキスト: 森岡孝二編著『格差社会の構造』第5章 家計の資産格差と生活格差

- ・ 格差論議：家計の経済格差：所得を主たる指標とする：資産格差は実態解明・理論化が遅れる
- ・ 所得：フロー 資産：ストック 前者の帰結として後者において増幅
- ・ 格差社会の解明には、資産格差の実態追及が必要
- ・ 所得を十分位で分類調査：国民経済計算 総務省「全国消費実態調査」「家計調査年報」
- ・ 所得と貯蓄の関係：所得が高ければ高いほど、それに付随する貯蓄額と貯蓄率が高い
- ・ 勤労所得に対比される資産所得は、各十分位が高位になるほどその額を増している
- ・ 家計資産の世帯間移行：土地資産額の約40%、金融資産額の約28%が相続を原因とする
持ち家率：各層とも高水準、相続対象
- ・ 「生活資産」と「貨殖資産」
 - 「生活資産」：純粋に家計による消費に供せられている資産
 - 「貨殖資産」：金融・株式市場や不動産賃貸市場に委ねられる資産
 - 「生活資産」のみにかろうじて終始する多数部分と「貨殖資産」にも大きく頼れる少数部分
- ・ 生活水準：その評価基準を、所得と消費だけに局限してよいか
 - A. セン：機能アプローチ、潜在能力アプローチ エージェント（能動者）とペイシエント（受動者）
- ・ 日本版ビックバン：1996年 金融の自由化、規制緩和
 - 総額一千数百兆円の家計の金融資産への内外金融機関の攻勢
 - 貯蓄から投資へ、富裕層を対象とするプライベート・バンキング、
 - 低所得者への大手銀行の消費者金融進出、住宅ローン戦略の強化
 - 準富裕層から超富裕層までの計7.5%（366.9万世帯）が
 - 金融資産の34.2%（395兆円）を保有する
- ・ ビックバン：ウィンブルドン現象 日本版ビックバン：国技館現象
- ・ 労働ビックバン：収入（賃金）→貯蓄→資産形成の基本過程を揺るがす 格差の拡大と固定化
- ・ 富の偏在
 - 家計資産・貨殖資産の拡大 世代間に特権的な「インナーサークル」の形成
 - 生活できない、結婚できない、子供を生めない → 悪循環
- ・ 人間の基本的な機能と状態：食べる・飲む・着る・住む・子供を生み育てる・人並みに交際する
 - ：多くの人は生活資産の制約で不十分にしか満たされない
 - 貯金ゼロ世帯が4分の1 多重債務者の数 200万人超
 - 2003年の自己破産者24.2万人 14年間で20倍 生活保護世帯の激増 100万超
- ・ 「生活大国」日本 → 「自己責任」日本 → 格差の拡大と固定化
- ・ 「美しい国」「希望の国」：ブラック・ユーモアに

○今週の元気な企業と人：住友金属工業製鋼所(大阪市)

○今週のビデオ：「セーフティーネット・クライシス ～日本の社会保障が危ない」[前半]

NHKスペシャル 2008年5月11日放送

質問・意見等は、高田の E-mail: ystakada@komazawa-u.ac.jp まで。

講義レジュメ、講義スライドの掲載ホームページ: <http://homepage1.nifty.com/ytakada/komadai/kougi/>